

低学年児童期の 学習

～保護者のみなさまへ～



第9回

自ら学ぶ姿勢を築くための家庭教育とは？



中学受験生（小学校高学年）をおもちの保護者からよく受ける相談があります。それは、「自分から勉強に取り組もうという積極性がありません」「もっと意気込みをもって取り組めないものでしょうか」という、**勉強に向き合う姿勢**に関するものです。親としては、受験という目標があるのだから、もっとやる気を前面に出した取り組みをしてほしいのでしょう。



しかしながら、「**目標があればやる気が高まる**」と思うのは大人の発想です。児童期の子どもは、今と将来を結びつけて考えるほどの人生経験がありません。ですから受験の動機も、「**親の出身校だから**」「**きょうだい通っていて、楽しそうだから**」など、身近なところから生まれているのが大半で、大人が考える受験の動機とはだいぶ違っているのが現実です。**受験合格に向けて一心に勉強に打ち込むようになるのは、6年生の後半ごろ**になってからのことだとお考えいただきたいですね。



では、この段階に至るまではどのような勉強の取り組みが望ましいのでしょうか。それを一言でお伝えするとしたら、「**自ら学ぶ姿勢を築く**」ということになるかと思います。親に言われてしぶしぶ勉強したり、口答えをして勉強から逃げようとしたりする姿勢が染みついてしまうと、いよいよ受験対策の大詰めという段階になっても一向にやる気が高まらず、取り組みも活性化しないという事態を招きがちです。**お子さんが3年生まででしたら、まだどのようにでも子どもを変えることができます。**今回のコラム記事を参考にし、ぜひお子さんの勉強の取り組みを改善していただきたいですね。



このつづきは、会員限定（会員専用ページ）でお読みいただけます。

- 3年部で入会をご検討の場合、個別授業体験をいつでも受け付けております！！
- 1～3年サンプルや案内資料のご希望もお気軽に！